

# NSK

## 日本精工株式会社

### 2023年3月期 3Q決算説明会



Change & Go Beyond

2023年2月3日

本資料には、業績見通し及び事業計画等を記載しています。  
それらにつきましては、各資料の作成時点における経済環境や事業方針などの  
一定の前提に基づいて作成しています。従って、実際の業績は、様々な要因により  
業績見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

それでは、FY22第3四半期の決算についてご説明いたします。

# 目次

**1. 2023年3月期 3Q実績**

**2. 2023年3月期 通期予想**

**(補足資料)**

**1. 2023年3月期 3Q実績**

**2. 2023年3月期 通期予想**

**(補足資料)**

## 事業環境

- 中国ゼロコロナ政策による経済混乱
- ウクライナ情勢の影響長期化
- 半導体不足などサプライチェーン問題継続
- 鋼材・輸送費・エネルギーのインフレ
- 不安定な為替相場

## 実績サマリー

(億円)	Q3累計実績		YoY		Q3実績		YoY	
	FY21	FY22	増減額	伸び率 (為替影響)	FY21	FY22	増減額	伸び率 (為替影響)
売上高	6,328	7,002	+674	+10.7% (+579)	2,150	2,364	+213	+9.9% (+202)
セグメント利益※ (対売上高率)	206 (3.3%)	240 (3.4%)	+34	+16.7% (+133)	43 (2.0%)	94 (4.0%)	+51	+117.2% (+50)
営業利益 (営業利益率)	208 (3.3%)	220 (3.1%)	+12	+5.7% (+133)	51 (2.4%)	85 (3.6%)	+34	+65.8% (+50)
税引前利益	209	215	+6	+2.8%	53	87	+34	+63.7%
当期利益 (親会社所有者帰属)	121	109	-11	-9.4%	43	49	+6	+14.1%
換算レート1USD	111.1	136.5	+25.4	+22.9%	113.7	141.6	+27.9	+24.6%
＃ 1EUR	130.6	140.6	+10.0	+7.6%	130.1	144.4	+14.3	+11.0%
＃ 1CNY	17.3	19.9	+2.6	+15.2%	17.8	19.9	+2.1	+11.9%

※セグメント利益：営業利益からその他の営業損益（為替差損益ほか）を除いたもの

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

4

こちらが第3四半期実績のサマリーになります。

事業環境につきましては、中国のゼロコロナ政策による経済の混乱があり、4月、5月はロックダウンが大きく影響しました。一転してこの12月には、新型コロナウイルス感染の急激な拡大で、経済が混乱したということです。ウクライナ情勢につきましては、残念ながら長期化しています。また、半導体不足であったり、コストのインフレの影響も引き続き影響した決算となっております。加えて不安定な為替相場です。10月には1ドル150円をつけたものの、その後円高に大きく動いているという環境でした。

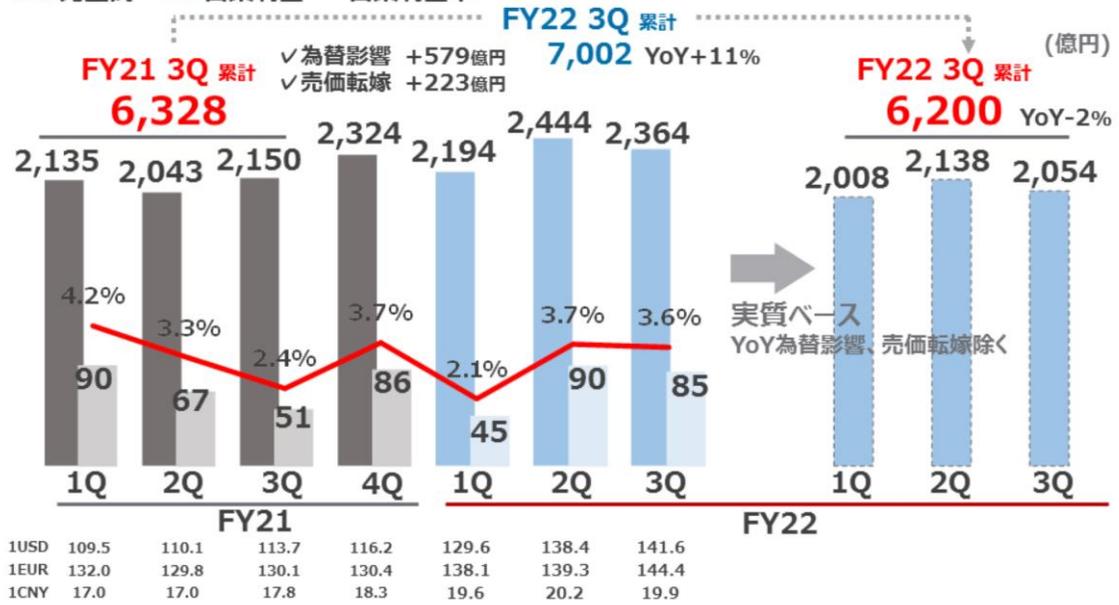
そのような環境下、当期の9カ月の実績は、売上高7,002億円、営業利益220億円、営業利益率3.1%、当期利益109億円となりました。これは前年9カ月との比較では売上高が674億円の増収、営業利益が12億円の増益、当期利益は11億円のマイナスとなります。売上高は674億円の増収となっておりますが、為替の影響が約580億円ありました。加えて、今期はインフレのコスト増に対応した値上げ活動を行っており、そちらが約220億円ありますので、それら影響を外しますと実質減となります。営業利益につきましても為替の影響が133億円ございますので、実質減益となります。

また、第3四半期3カ月の実績も記載しています。売上高2,364億円、営業利益85億円の営業利益率3.6%、当期利益が49億円となっております。インフレ、コストアップの影響に対して値上げを行った結果、第3四半期3か月ではプラス16億円の益サイドに効いており、それらを入れて前年同期比で34億円の増益となりました。続いて5ページをご覧ください。

# 2023年3月期 第3四半期実績サマリー②



■ 売上高 ■ 営業利益 - 営業利益率

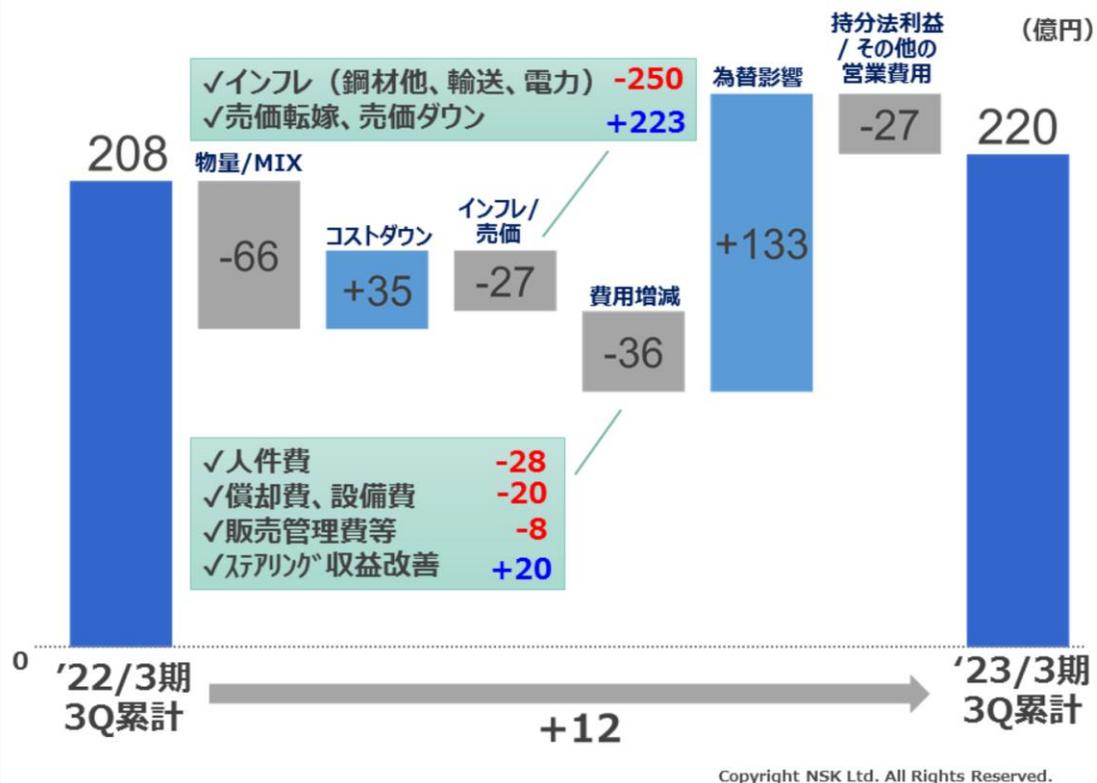


- 3Q累計実績 為替、売価転嫁の影響除くと実質物量減少
- 3Q実績は中国経済減速 QoQ減収

昨年FY21の第1四半期から四半期別に並べています。

左側の黒いグラフ、FY21の第3四半期までの累計の売上高が、上に赤字で書いてありましており6,328億円でした。締めました当第3四半期累計の売上高は7,002億円です。6,328億円と7,002億円を単純に比べますと、11%の増収となっておりますが、為替の影響579億円と売価転嫁223億円を除きますと実質6,200億円の売上高で、前年に比べて2%の減収になります。第2四半期から第3四半期につきましては、中国経済の減速の影響等を受け減収になったということです。

# 営業利益 増減内訳 ('22/3期3Q累計 ⇒ '23/3期3Q累計)



6ページは、第3四半期累計の営業利益を前年同期と比較したものです。

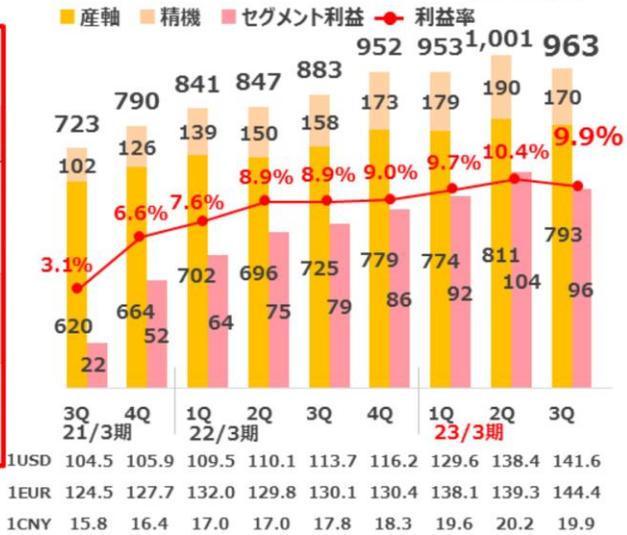
左側に昨年度実績の営業利益208億円、右側が今期実績の220億円で、12億円の増益となっております。その中身としては、まず左側にあります物量/MIXです。先ほど実質売上高が減だとして説明いたしましたが売上高は約マイナス130億円と考えていますので、その物量減影響等を入れて66億円の減益の効果が出ているということです。

コストダウンについては従来の地道な活動等を一つ一つ積み重ねていき、35億円の効果を出しております。インフレによるコスト増250億円に対して売価転嫁を223億円行いましたが、コスト増が27億円残っているということです。その右側は費用増減です。人件費は、物量減に伴いまして残業の削減や人員体制を見直しましたが、今年度のベースアップ・賞与等の影響で増加しました。また、ステアリングの収益改善効果はありますが償却費等が増えたことも含めて合計で36億円コストが上がったということです。それらに対して為替影響のプラス133億円を入れて、220億円の利益になったということになります。

# 2023年3月期 3Q累計実績 -産業機械事業-



(億円)	22/3期 3Q累計 実績	23/3期 3Q累計 実績	YoY 増減額 (為替影響)	YoY 伸び率 (為替除く)
売上高	2,571	2,917	+347 (+245)	+13.5% (+4.0%)
産業機械軸受	2,123	2,379	+255	+12.0%
精機製品	447	539	+92	+20.5%
セグメント利益	218	292	+74	+34.2%
(対売上高率)	(8.5%)	(10.0%)		
換算レートUSD	111.1	136.5	+25.4	+22.9%
＃ 1EUR	130.6	140.6	+10.0	+7.6%
＃ 1CNY	17.3	19.9	+2.6	+15.2%



CMS本部設立により、23/3期3Qにセグメント変更を実施  
(その他および精機製品から産業機械軸受)  
これに伴い、22/3期に遡って新区分で表示

- 3Q累計は為替影響、売価転嫁を除く実質でYoY横ばい
- 3Qは中国経済の減速影響で減収  
(市販は好調も工作機械・半導体製造装置・家電向けが減少)
- 利益率は2桁レベルを継続 インフレに対する売価転嫁進展中

続いて事業別に見ていきます。7ページは産業機械事業です。

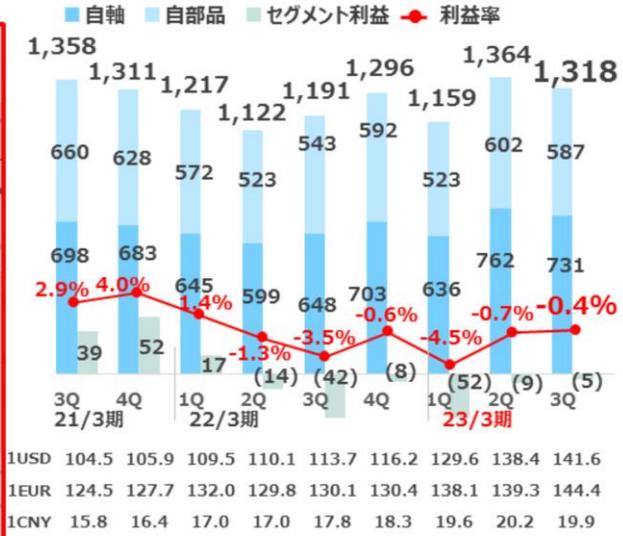
まず最初に、中段に赤字で記載させていただいておりますが、当社では10月1日付で、産業機械事業本部の傘下にCMS（コンディションモニタリングシステム）本部を設立いたしました。産業機械事業の本部の中でCMS事業の運営を行っていくということで、FY20に買収いたしましたBKV（ブリュエル・ケアー・バイプロ）の事業に加えまして、もともと当社が行っていた研究開発を中心としたCMSの活動を一緒にして運営してまいります。そのため、昨年度に遡って数字を変更しておりますので、修正後の数字をもとにご説明させていただきます。

この9カ月の産機の売上高は2,917億円、利益は292億円、利益率は10%です。為替、売価転嫁の影響等を除きますと前年同期比で売上高、利益共にほぼ横ばいとなりました。第3四半期3か月の実績は、中国経済の減速の影響があつて第2四半期から減収となっております。これは右側のグラフに四半期別が出ておりますので、そこでご確認いただけるかと思っております。市販は好調でしたが、工作機械、半導体製造装置、加えて特に中国で家電向けが減少したということです。それでもこの3か月の利益率は9.9%と2桁レベルを継続し、インフレに対する売価転嫁も進展中という状況です。

# 2023年3月期 3Q累計実績 -自動車事業-



(億円)	22/3期 3Q累計 実績	23/3期 3Q累計 実績	YoY 増減額 (為替影響) (+326)	YoY 伸び率 (為替除く) (-0.4%)
売上高	3,530	3,842	+312	+8.8%
自動車軸受	1,892	2,129	+237	+12.5%
自動車部品	1,637	1,713	+75	+4.6%
セグメント利益 (減損除く)	-39	-67	-28	-
(対売上高率)	(-1.1%)	(-1.7%)		
営業利益 (減損含む)	-130	-67	+63	-
(対売上高率)	(-3.7%)	(-1.7%)		
換算レート1USD	111.1	136.5	+25.4	+22.9%
" 1EUR	130.6	140.6	+10.0	+7.6%
" 1CNY	17.3	19.9	+2.6	+15.2%



- グローバル自動車生産台数 3Q累計実績 56M台※当社調べ (YoY +4%)
- 為替影響、売価転嫁進展で3Q累計YoY増収も実質物量減少
- 3Qはサプライチェーン問題の影響長期化に加え、中国経済減速により減収
- インフレに対する売価転嫁進展で3Qは赤字幅縮小

8ページは自動車事業です。

9カ月の業績は左側の数表にあります。売上高は3,842億円です。利益は、昨年度営業利益の中にはステアリングの減損が含まれておりますので、それを除いたセグメント利益で比較しますと、セグメント利益が67億円の損失で前期比マイナス28億円です。売上高は為替等の影響があり、実質減少です。なお、グローバル自動車生産台数は、YoYで4%程度増えていると我々は見えております。一方、当社の売上高は為替や売価の影響を除くとマイナスになっていますが、ここには自動車の生産台数には含まれていない、ユニットメーカーの生産台数の影響が当社の売上高に影響しました。昨年度は自動車の生産台数を上回る売上高の伸びを示していましたが、ユニットメーカーが昨年度は在庫を積み上げたこともあり、今年度に入って生産調整を行い、この下期にかけて一段の生産調整を行っているため、その影響が効いたということです。なお、第3四半期は、サプライチェーン問題の長期化に加えて中国経済の減速があり、第2四半期から売上高が減っていますが、売価転嫁を行っており損失は縮小しています。

1. 2023年3月期 3Q実績

2. 2023年3月期 通期予想

(補足資料)

## 10月公表の通期予想を見直し

- 産業機械事業は中国市場を中心に需要の減速を織り込み
- 自動車事業はサプライチェーン問題の影響長期化、中国経済減速で回復遅れ
- 為替レートを見直し（4Qレート USD 125円、EUR 140円、CNY 19円）

## 通期予想サマリー

(億円)	修正予想	対 10月予想	伸び率	(為替影響)	22年3月期 通期実績
売上高	9,300	-500	-5.1%	(-100)	8,652
セグメント利益※ (対売上高率)	305 (3.3%)	-155	-33.7%	(-20)	288 (3.3%)
営業利益 (営業利益率)	280 (3.0%)	-160	-36.4%	(-20)	294 (3.4%)
税引前利益	265	-155	-36.9%		295
当期利益 (親会社所有者帰属)	135	-135	-50.0%		166
換算レート1USD	133.6	-3.3	-2.4%		112.4
"  1EUR	140.5	+1.1	+0.8%		130.6
"  1CNY	19.7	-0.3	-1.4%		17.5

- **配当金は年間30円/株の計画を維持** (中間15円/株、期末15円/株)

※セグメント利益：営業利益からその他の営業損益（為替差損益ほか）を除いたもの

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

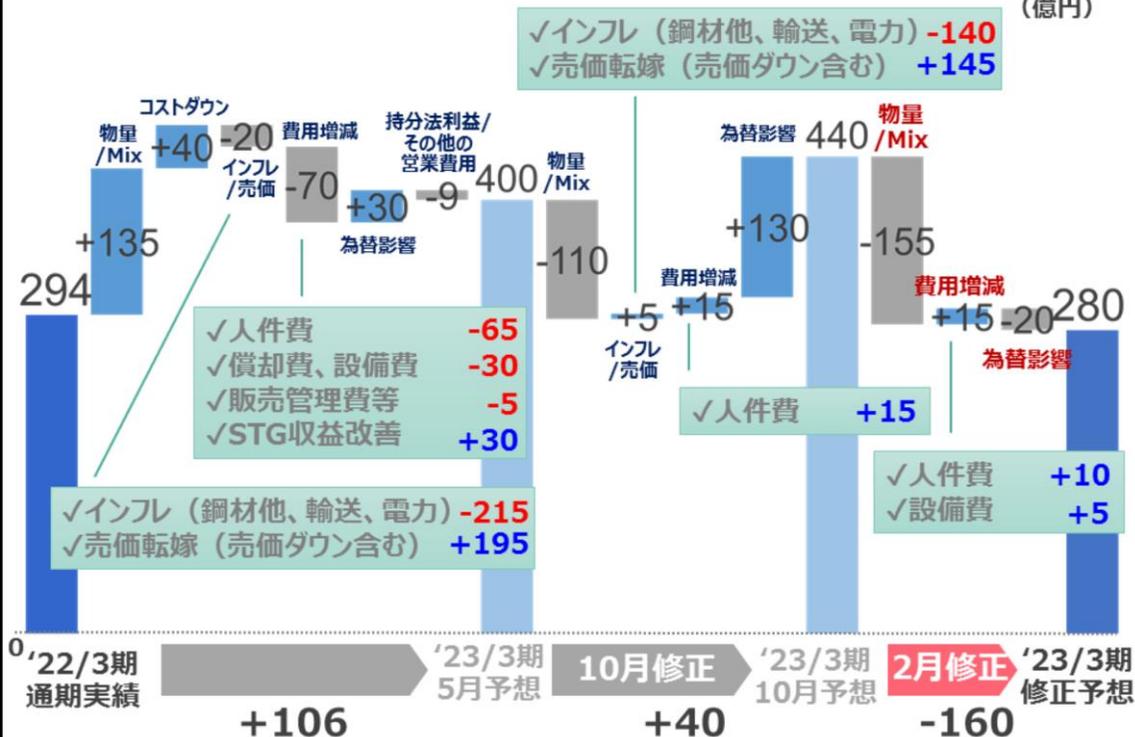
10

続いて通期業績予想についてです。10ページになります。

これまでご説明した第3四半期までの実績および為替を含めた足元の環境を勘案し、遺憾ながら下方修正をすることといたしました。背景としましては、産業機械事業は中国市場を中心に需要の減速を織り込みました。自動車事業は、サプライチェーンの問題は長期化しております。加えて自動車も中国経済の減速の影響があり、回復が遅れています。為替レートは、10月の公表時にはUSDドルを140円、人民元を20円としましたが、それぞれ125円、19円と円高方向に修正をしました。その結果、売上高は9,300億円、営業利益280億円で利益率は3%、当期利益135億円ということで、10月の公表値に対して売上高で500億円の減収、営業利益は160億円の減益となっております。為替の影響が売上高でマイナス100億円、利益でマイナス20億円となりますので、実質400億円の売上高減に対して140億円の利益減となります。なお、下方修正をいたしました。配当につきましては年間30円という当初計画を維持しております。

# 営業利益 増減内訳① ('22/3期実績 ⇒ '23/3期修正予想) **NSK**

(億円)



Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

11

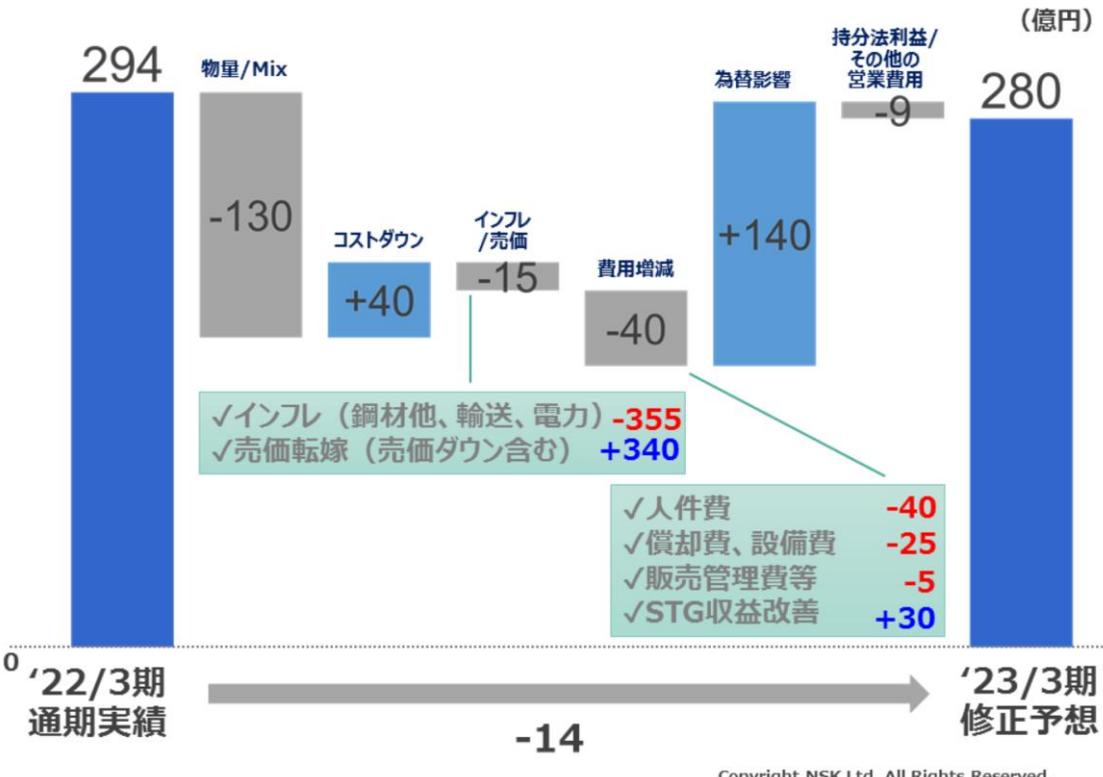
11ページはこれまでの経緯をまとめたものです。

昨年度実績の営業利益は294億円。5月の決算発表時に今期の業績予想を400億円で開催しました。この時は前期比で物量増を見込みました。インフレに対する売価転嫁ではコスト増が20億円程度残る想定で、人件費など費用増も加えた上で、営業利益は400億円と前期比増収増益の決算を想定しました。10月時点の修正では一転物量が落ちてくることを見込み、その影響として利益にマイナス110億円を見込みました。

加えてさらなるインフレのコストアップを140億円見込み、一方で追加の売価値上げを145億円計画しました。それに為替の円安影響として、130億円増益の効果を入れて440億円としました。実質減収減益ながら、為替影響があって、利益としては40億円のプラスという修正を行いました。

今回の修正は繰り返しになりますが、物量が減る中、為替が円高に動いたこともあり280億円となっております。なお、10月の修正時に織り込んだ追加のインフレに対する売価値上げの対策は維持し、着実にこれを達成してまいります。

# 営業利益 増減内訳② ('22/3期実績 ⇒ '23/3期修正予想) **NSK**



12ページは、11ページをまとめたものです。

物量ベースでは130億円の減益、コストダウンを40億円、インフレと売価転嫁は計画どおりですが、15億円ほど今期は売価の方がコスト増に届かないという計画です。そして人件費は削減を行っておりますが40億円のコスト増は残ります。結果として昨年度と比べると為替の効果が140億円残り、280億円の営業利益になるということです。

# 2023年3月期 通期予想 セグメント別

## 産業機械 ✓中国を中心に想定以上の需要減速

(億円)	10月予想	前半実績	23/3期		対10月予想			22/3期 通期実績
			後半予想	修正予想	増減額	(為替影響)	伸び率	
売上高	4,000	1,954	1,876	3,830	-170	(-50)	-4.3%	3,522
産業機械軸受	3,250	1,585	1,555	3,140	-110		-3.4%	2,902
精機製品	750	369	321	690	-60		-8.0%	620
セグメント利益	445	196	174	370	-75	(-15)	-16.9%	304
(対売上高率)	(11.1%)	(10.0%)	(9.3%)	(9.7%)				(8.6%)

## 自動車 ✓自動車生産調整で74万台へ見直し (10月予想比年間-4% 2H-7%)

(億円)	10月予想	前半実績	23/3期		対10月予想			22/3期 通期実績
			後半予想	修正予想	増減額	(為替影響)	伸び率	
売上高	5,415	2,523	2,637	5,160	-255	(-50)	-4.7%	4,825
自動車軸受	3,055	1,398	1,482	2,880	-175		-5.7%	2,596
自動車部品	2,360	1,125	1,155	2,280	-80		-3.4%	2,230
セグメント利益 (減損除く)	0	-61	-19	-80	-80	(-10)	-	-47
(対売上高率)	(0.0%)	(-2.4%)	(-0.7%)	(-1.6%)				(-1.0%)

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

13

13ページは事業別の予想になります。

上段は産業機械、下段は自動車となっています。産業機械は中国を中心に想定以上の需要の減速を織り込みました。売上高3,830億円、利益で370億円、営業利益率9.7%です。10月公表の業績予想に対しては、為替の影響が売上高でマイナス50億円、利益でマイナス15億円です。売価転嫁とインフレによるコスト増の関係は10月公表の計画から変えておりませんので、今回の業績予想では差額として出てこないということになります。

自動車は生産台数の調整が入ることを織り込み7,400万台ということで、10月公表の予想に対して年間でマイナス4%です。もちろん10月の時点で上期は締まっておりますので、下期だけ見ますとマイナス7%の減産です。自動車の生産台数には入っていない、ユニットメーカーの生産も10%以上下期で落ちるということを入れて、自動車の売上高は5,160億円、セグメント利益は80億円の損失と見ております。為替の影響は売上高でマイナス50億円、利益でマイナス10億円を見込んでおります。

## ✓ 2023年3月期 進捗状況

- > 想定以上の需要減速、為替相場の円高進行を受け  
10月公表の業績予想は下方修正
- > 売値上げは計画を達成する見込み
- > ステアリング事業の構造改革は計画どおり進行中

## ✓ 重点課題

- > 来期に向けて売値上げの交渉を継続
- > 在庫削減継続
- > 需要減速に対応した生産体制

ご説明の最後になりますが、14ページは今期の進捗状況サマリーと重点課題です。

これまでの進捗状況として、繰り返しになりますが、想定以上の需要の減速、為替相場の円高進行を受けて、10月公表の業績予想は下方修正いたします。なお、売値上げは計画どおり達成する見込みです。また、ステアリング事業の構造改革も計画どおり進行しております。重点課題としましては、計画どおり値上げが進んでおりますが、まだとり切れてない部分もありますため、それも含めて来期に向けて売値の値上げ交渉を継続しています。加えて、昨年度在庫が増えてしまった分を含めて、在庫削減の継続を行います。在庫の削減と併せて、需要減速に対応した生産体制とし、今後の動向を的確につかみ、適切な対応をしていきたいと考えております。

ご説明は以上となります。

1. 2023年3月期 3Q実績

2. 2023年3月期 通期予想

**(補足資料)**

# 補足. 事業セグメント別業績

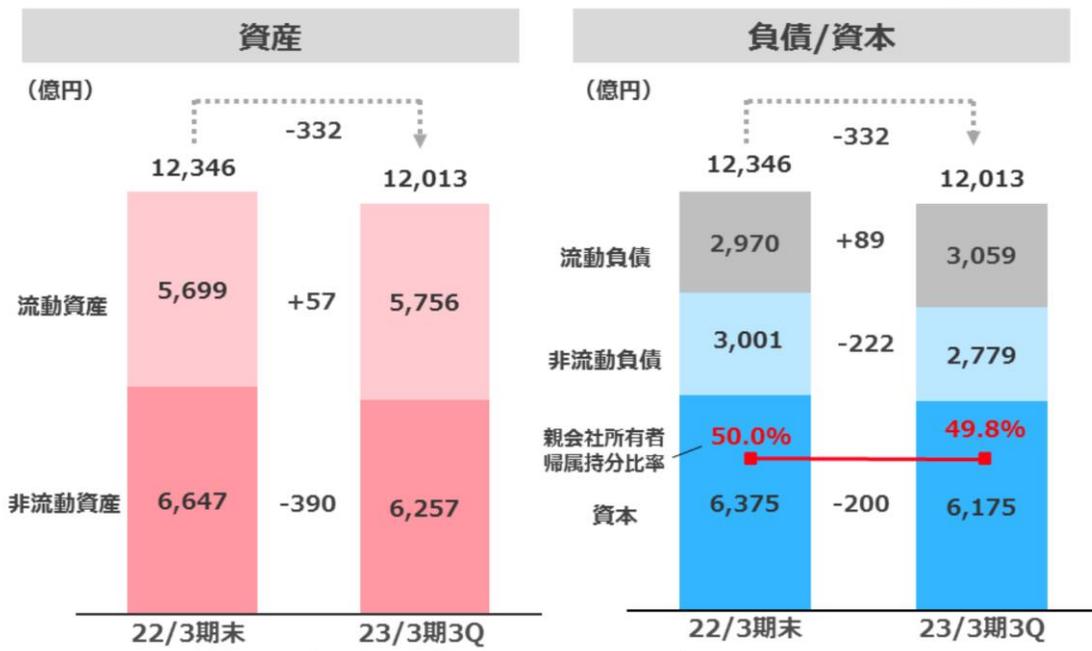
(億円)		22/3期			23/3期			23/3期			23/3期 通期予想
		Q3累計	Q3	通期	Q3累計	増減額	伸び率	Q3	増減額	伸び率	
合計	売上高	6,328	2,150	8,652	7,002	+674	+10.7%	2,364	+213	+9.9%	9,300
	セグメント利益	206	43	288	240	+34	+16.7%	94	+51	+117.2%	305
	(対売上高率)	(3.3%)	(2.0%)	(3.3%)	(3.4%)			(4.0%)			(3.3%)
	営業利益	208	51	294	220	+12	+5.7%	85	+34	+65.8%	280
	(営業利益率)	(3.3%)	(2.4%)	(3.4%)	(3.1%)			(3.6%)			(3.0%)
産業機械	売上高	2,571	883	3,522	2,917	+347	+13.5%	963	+80	+9.1%	3,830
事業	産業機械軸受	2,123	725	2,902	2,379	+255	+12.0%	793	+69	+9.5%	3,140
	精機製品	447	158	620	539	+92	+20.5%	170	+12	+7.4%	690
	セグメント利益	218	79	304	292	+74	+34.2%	96	+17	+21.9%	370
	(対売上高率)	(8.5%)	(8.9%)	(8.6%)	(10.0%)			(9.9%)			(9.7%)
自動車	売上高	3,530	1,191	4,825	3,842	+312	+8.8%	1,318	+128	+10.7%	5,160
事業	自動車軸受	1,892	648	2,596	2,129	+237	+12.5%	731	+83	+12.9%	2,880
	自動車部品	1,637	543	2,230	1,713	+75	+4.6%	587	+44	+8.2%	2,280
	セグメント利益	-39	-42	-47	-67	-28	-	-5	+36	-	-80
	(対売上高率)	(-1.1%)	(-3.5%)	(-1.0%)	(-1.7%)			(-0.4%)			(-1.6%)
	営業利益	-130	-132	-138	-67	+63	-	-5	+127	-	-80
	(対売上高率)	(-3.7%)	(-11.1%)	(-2.9%)	(-1.7%)			(-0.4%)			(-1.6%)
その他	売上高	393	132	533	442	+49	+12.5%	151	+19	+14.2%	595
	営業利益	25	6	29	13	-12	-48.9%	3	-3	-45.9%	15
	(対売上高率)	(6.4%)	(4.4%)	(5.4%)	(2.9%)			(2.1%)			(2.5%)
	売上高消去	-166	-55	-229	-199	-34	-	-68	-13	-	-285
	その他の営業損益/調整額	95	99	100	-19	-113	-	-9	-108	-	-25

CMS本部設立により、23/3期3Qにセグメント変更を実施（その他および精機製品から産業機械軸受）  
これに伴い、22/3期に遡って新区分で表示

# 補足. 顧客地域別売上高

(億円)	22/3期実績		23/3期実績		YoY (Q3累計)		YoY (Q3)	
	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	増減額	伸び率	増減額	伸び率
売上高	6,328	2,150	7,002	2,364	+674	+10.7%	+213	+9.9%
日本	2,343	775	2,291	758	-52	-2.2%	-18	-2.3%
海外合計	3,985	1,375	4,710	1,606	+726	+18.2%	+231	+16.8%
(海外比率)	(63.0%)	(63.9%)	(67.3%)	(67.9%)				
米州	903	299	1,243	432	+340	+37.7%	+133	+44.4%
欧州	804	269	934	324	+130	+16.2%	+55	+20.4%
中国	1,341	482	1,449	488	+108	+8.1%	+5	+1.1%
その他アジア	937	324	1,085	363	+147	+15.7%	+38	+11.8%
換算レート								
1USD	111.1	113.7	136.5	141.6	+25.4	+22.9%	+27.9	+24.6%
1EUR	130.6	130.1	140.6	144.4	+10.0	+7.6%	+14.3	+11.0%
1CNY	17.3	17.8	19.9	19.9	+2.6	+15.2%	+2.1	+11.9%

# 補足. 財政状態

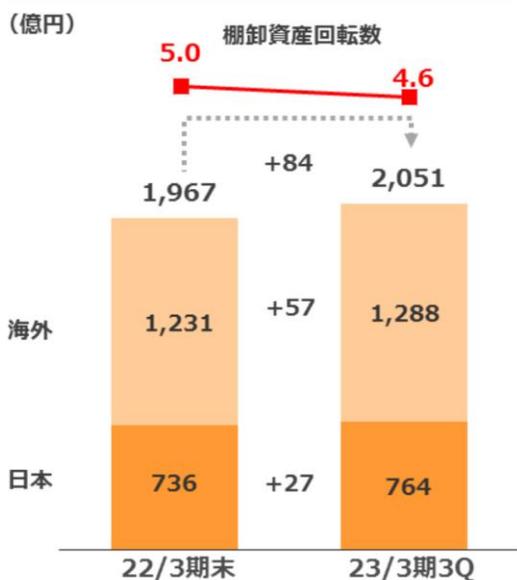


換算レート	22/3期末	23/3期3Q末
1USD	122.4	132.7
1EUR	136.8	141.4
1CNY	19.3	19.0

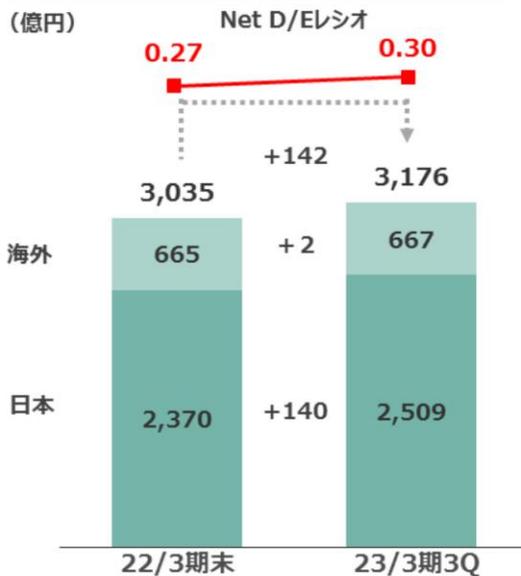
# 補足. 棚卸資産/有利子負債



## 棚卸資産



## 有利子負債



換算レート	22/3期末	23/3期3Q末
1USD	122.4	132.7
1EUR	136.8	141.4
1CNY	19.3	19.0

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

# 補足. 設備投資額/減価償却費/研究開発費

(億円)	22/3期	23/3期			通期予想 (当初予想)
	通期実績	1Q実績	2Q実績	3Q実績	
設備投資額	523	92	142	133	650 (700)
設備投資額 (リース除く)	445	77	114	128	600 (700)
減価償却費	566	143	147	148	570
減価償却費 (リース除く)	518	130	133	134	520
研究開発費 (制度決算ベース)	192	45	51	51	200
(参考) 技術関連費用	308	74	78	77	320

MOTION & CONTROL™

**NSK**

## NSKの企業理念

NSKは、MOTION & CONTROL™を通じ、  
円滑で安全な社会に貢献し、  
地球環境の保全をめざすとともに、グローバルな活動によって、  
国を越えた人と人の結びつきを強めます。

## NSKビジョン2026

あたらしい動きをつくる。

あらたなライフスタイルを生み出し、笑顔あふれる明日を実現するための、  
次の「動き」をつくる。

社会のニーズをいち早く発掘し、世界中の期待を超える、  
誰も想像できなかった「動き」をカタチにする。

私たちが未来を動かしていく。

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.